

あろま

2011.2.14.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

2月例会 シュートボール(低学年)の実践報告 ＆低学年・ボール運動指導案づくり

2月5日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック2月例会が開催されました。

9人の方が参加され、例会で連続して検討されている低学年のシュートボールの授業の報告を受け、これからどのように授業を進めていくのかなどについて意見を出し合いました。

また、2年生のフラッグフットボールへつながる「ボール運びゲーム」の授業案についても話し合いました。今回も5時簡に及ぶ熱気あふれた例会になりました。

作戦人形づくり

まず始めに、型紙をもとに、「ボール運動作戦人形」を参加者全員が作りました。厚手の画用紙に印刷してある人型の裏表を貼り合わせ、顔や背番号を描き、色を塗って切ります。その足の部分に、両面テープで磁石を貼り付けてできあがりです。これなら低学年でもできそうです。



近況から

ボール運動でコンビネーションの動きを考えるための人形を作ってみた。ザラ味のついたテーブルクロスのような生地で、人形を乗せるコートを作ることも考えた。ゴールのついたコートも作ってみた。ハンドボールの教材研究のための資料を用意してきた。(Aさん)

関東ブロック研究集会で「大森みかぐら」を踊ったが、すばらしい踊りだと感じた。学校では、サッカーの学習を子どもたちが自分たちで進めていて、驚いている。(Bさん)

推進講座の氏岡さんの話がとてもよかった。子どもは背後に親の不安定さを引き摺っているのを感じる。取り組んでいるシュートボールに「ポケシュートゲーム」という名前がついた。授業のことで、今週はちょっと落ち込んでいる。(Cさん)

ポケシューゲームの授業が終わった後に感想を聞いたのだが、あまり得意ではない女の子が「敵に囲まれたらパスをした方がいい」と言ってくれた。2時間目には18人がシュートできた。「パスが回ってきてうれしい」「パスパスと言ってもパスしてくれなくてつまらない」という感想があった。(Dさん)

とび箱で台上前転に取り組み、2台連結のとび箱を使って全員ができるようになった。初任研の最後の研究授業でもとび箱の授業をした。「台上前転は3年生の内容だ」ということも言われたが、子どもたちはとても楽しくできた。(Eさん)

サッカーを見ようとしていたら体が熱くインフルエンザにかかってしまった。クラスも学級閉鎖になった。休んでいる間、山内さんの器械運動のビデオを見て、改めてきちんと勉強したいと思った。ペースランニングをやっている。マットにも取り組んでいきたい。(Fさん)

久しぶりの例会。学習発表会の練習のため体育館が使えないので、空いているところをさがして、なわとび、鬼ごっこなどを楽しくやっている。(Gさん)

サッカーの試しのゲームをやったが、混沌としている。朝早くからラインを引いたりして準備している。校庭が広く、その両端にゴールがあるのでコートが広すぎる。高学年は自分たちで準備をするなど、よく集団をつくっていると感激している。関プロでハンドボールの技術は何かということについて話したが、少しはわかってくれたようだ。(Hさん)

班で遊ぶ日をつくっているが、きちんと班で遊んでいるので、帰りの会でほめた。鬼ごっこのルールを教えてあげようとしたが、その子がみんなに追いつかなくて癇癪を起こしてしまい、とばっちりを受けたりもした。(Iさん)

ハンドボールの教材研究

新指導要領とその解説の中に、球技・ゴール型の小学校低学年から中学校までの技能領域についてどのように書かれているかを整理した一覧表、新指導要領解説のゴール型の球技の活動内容の抜書きの一覧表から、ハンドボールがどのように位置づけられているかを分析してくれました。その資料の中には、次のように書かれています。

...ここから見えてくるのは、同志会実践研究の成果の一定程度の反映とその不十分さ
攻撃優先の指導

ゴール前空間の攻防の重視

「的当てゲーム」-「シュートゲーム」-「ハンドボール」の教材の系統性の承認
具体的な指導法は現場まかせなので、ここに同志会の出番がある。

しかしながら、

指導要領の「内容」は、活動目標どまりになっている。

例示の内容は「学習内容」とも読み取れるが、「言葉の使い方」による、「内容の明確化、体系化」とどまる。

したがって、「このためにどんな指導をするのか」と問えば、それは同志会の2:0、3:0の指導系統にそった指導の具体的な展開とならざるを得ない。

そして、「低学年ボール運動から中学ハンドボールまでの指導内容と指導法の確立が求められている」と研究の課題をまとめています。

「ポケシュートゲーム」の授業報告と検討

授業報告

■ 1月24日

- ・ボールを持つとすぐに敵のゴールに向かいシュートしていた。
- ・シュートした後は敵の攻撃に備えるためにすぐに自陣へ戻っていた。
- ・ゴール前で敵に囲まれ、困って友だちにパスし、それがシュートへつながった。
- ・ボール前をガードする守備方法を始めた。
- ・シュート後、キーパーがパスして始めることが多い。
- ・ボールを持っている子の前に敵が来て、なかなかシュートできない。パスはするがシュート成功がむずかしい。
- ・ジャンプボールがうまくいかない。
- ・シュート記録がむずかしい。

授業の振り返りで、「たくさんシュートできて楽しかった。」「初めてシュートできてうれしかった。」「一度もシュートできなかった。つまらなかった。悲しかった。」という意見が出た。

■ 1月26日

シュートボールの名前について考え合う。翌週、3クラスで協議し「ポケシュートゲーム」に決まる。

ゲームのビデオを見せながら、「どういうゲームだと楽しいか」を話し合い、「みんながシュートできるゲーム」と、目標を確かめ合う。

■ 2月1日

昼休みに発生したトラブルや急な出張のため、練習だけ行った。

グループで敵役と味方役に分かれて2：1のパス・シュート練習を行う。パスがつかないとパス練習に切り替えるチーム、パスしないでシュートしているチームもあった。

■ 2月4日

ゲームのルールを確認してから体育館に行った。

- ・4人対4人
- ・キーパー1人（交代で行う）
- ・ゲームの始めはワンバウンドボール
- ・ボールを持って何歩動いてもよい
- ・人が持っているボールは奪い取らない
- ・1回以上パスしてシュートする（マスターシュート）
- ・線から出たら相手ボール
- ・シュートした後、相手ボール
- ・ボールの取り合いになったら、その場でワンバウンドボール

- ・前をふさがれ、後ろの子にパスし、パスされた子が斜め方向からシュートを決めた。
- ・1回パスされると、前をふさがれていても強引にシュートすることもあった。
- ・ループシュートもできていた。
- ・1回パスしなくてはいけないので、シュートチャンスを生かせない場面もあった。
- ・シュートする子が限られてしまう傾向があった。
- ・パス - キャッチがうまくいかず、ラインアウトが多くなった。
- ・こぼれ球が増え、ボールの取り合いが発生した。
- ・教師の声かけが多く、強い口調になってしまった。

授業の振り返りでは、「シュートができて楽しかった」という多くの意見に混じって、「パスをはずしたけど、楽しかった」「もっとしっかりボールがとれるようにがんばります」「すごいシュートがあってすごかった」「1回もシュートできなかった。悲しかった。(前の授業の時とはちがう子)」などの意見があった。

《課題》

- 空いている空間を見つけてパスし、シュートする技術練習をちゃんと理解して、その方法を身につけるために、どう具体的に教えていくか。
など

例会の話し合い

- ・1年生では、どの程度空間の使い方について理解ができるのか。ディフェンスがいなくてもディフェンスがいるかのごとく、空間を見つけてプレーする2：0の練習が可能なのだろうか。経験から4年生ではできるが。
- ・ゴールと味方と両方が見えている子もいる。ゴール前のシュートしやすい位置に動きパスをもらうということを、個人にあった形でみんなにわかるようにさせる練習が必要。パス - キャッチも、どういうパス - キャッチをめざすのかを、どういうパス - キャッチが可能なかを考えながら練習する。
- ・4人对4人は多い。パス - キャッチができないところでゲームをするのは難しい。ワンバウンドキャッチから練習したり、2：1の簡単なゲームをしたりする。
- ・2：1で練習し、ノーマークの味方にパス - シュートすることをわからせ、3人对3人のゲーム(1人はキーパーなので3：2になる)で試すようにしたらどうか。
- ・2：1にすることには反対。空間をつくりだすためにコンビネーションをどのようにしていくかを、学習内容としてきちんと考えるようにさせなくてはならない。2：1ではそれができない。
- ・空間の使い方をめぐる2人の関係性の認識は、同時的なのか順次性があるか考えるのか。重要空間に走りこみ、パスを受けてシュートするコンビネーションが成立するために必要なのは、

シュート技術(ねらって投げる技術)

空間を見つける、空間に動く、そしてパスを受けることができる。(空間認識)

パス - キャッチという関係性

空間と関係性をあわせ持つ2：2(2：0)を本質としつつ、練習の中には2：1を入れ

るのは一向に構わないのではないか。

《今後の授業の進め方》

- ・「作戦人形」を使って、2：2で空いているところに動いてパスをもらいシュートすることをわからせ、体育館で実際に動いて理解する。そしてその動きを練習する。
 - ・パス・キャッチの技術も練習して高めていく。
- など。

フラッグフットボールにつながる「ボール運びゲーム」

研究授業の指導案についてみんなで検討しました。

全体の授業の流れ（学習過程）は、こんなふうです。

しっぽとりゲーム（オリエンテーションとして学習計画、ゲームの進め方、ルールを確認する。しっぽとりゲームをやってみる。）

フラッグ陣取りゲーム（敵にフラッグを取られないようにして自分たちの陣地まで走るゲーム）

ボール運びゲーム その1（1人が1個ずつボールを持って、フラッグを取られないようにして自分たちの陣地までボールを運ぶゲーム）

ボール運びゲーム その2（2人に1個ボールを持って、フラッグを取られないようにして自分たちの陣地までボールを運ぶゲーム。ボールを持っていない人の役割の認識が大切。）

ボール運びゲーム その3（チームで1個ボールを持って、フラッグを取られないようにして自分たちの陣地までボールを運ぶゲーム。ひとりひとりにそれぞれ役割がある。それをタイミングよくできるように、作戦づくりや作戦練習が大切。）

まとめのゲーム大会

授業について、こんなふうな願いをもっています。

- ・フラッグフットボールにつながるボール運びゲームにしたい。
- ・2人の関係性を2年生なりにわからせたい。
- ・空いている空間をわからせたい。

例会の話し合い

- ・ラグビーやアメフトは他の球技とボール操作がちがう。前に投げない、人間が前進する。しかしボールを前に出そうが後ろに出そうが、どんな球技もコンビネーションプレーは同じ。
- ・ランプレー中心にやっていく方がよい。
- ・ボール運びゲームは、意図的な空間に向かって動く、そのために周りが助けてくれるゲームだ。
- ・この教材で文化的特質を学び、作戦中心にやっていける。
- ・ゲーム人数は4人対4人でよい。
- ・特別支援の子にも、コミュニケーション、社会性、運動によって身体の発達を促す、この3つをこのゲームを通して育てていける。

参加された方の感想から

今日は重い気持ちでサークルに来ましたが、みんなで話しているうちに元気が出てきました。

ただ、1年生の子どもたちにどうやって、どこまで空間を認識させられるのか、ボール操作ができるのか...、未知なものがいっぱいです。

子どもたちはポケシュートゲームを楽しんでいるので、もっと私が頑張らないといけないと思いました。

次回は明るい気持ちで来られるようにしたいです! (Cさん)

久しぶりの参加でしたが、やっぱり勉強になりました。教具の工夫も大切ですね。今日検討した事が、実践でどうなるのか、次回の報告が楽しみです。

(Gさん)

低学年は丁寧なパス・キャッチの指導が大切なのだと改めて感じた。

2:0や2:1、3:3の練習と、ステップを踏んでゲームにつなげていきたいと思った。それにプラスして、やはり“楽しさ”なのですね。(Eさん)

シュートボールの名前とルールも決まり、3クラス対抗のゲームも行うことになった。子どもたちから「相手のいないところでパスをもらえばいい」という意見も出てきた。頭ではわかっているようだが、それが実際のゲームになると、全然出来てはいない。2対1の練習を通じて、パスの技術をもっと高めていきたい。(Dさん)

○資料作成と人形づくりをみなさんに喜んでもらえてよかった。

○ポケシュートゲームの報告(ビデオ)には感激した。

○2:0の低学年内容の検討の方向性が見えてきている。引き続きの報告が楽しみだ。

○次の明星提案の接合を楽しみにしている。(Aさん)

2:0、2:1については実際にやってみると、2:0は、その動きの練習の中に楽しみや意味を見出すことがむずかしいと感じています。なので、実践の中では、2:1でやっているような気がします。

そうしたところを、みんなで動きながら確かめてみたいです。(Fさん)

○2:0について

「2:0」について、これまで少し教えていただきましたが、自分が思っている以上に奥が深いものだと思います。

2:0や2:1などで何を教えるのか、こちらがおさえおくのと同時に、子どもに理解させること、その手立てなど必要だと思いました。(Iさん)

授業のビデオから、何としても子どもたちにわからせようという教師の強い思いが伝わってきて、感動した。見習わなくてはいけないと思った。授業の報告は、低学年の実態を踏まえた上で、ゴール前のコンビネーションについて、何をどのようにわからせるかということについて、いろいろ考えるための大変貴重なものであった。この例会の論議を踏まえて、授業を通して確かめてくれる。ありがたいです。(Bさん)

西多摩ブロック 3月例会のご案内!

日時: 3月5日(土) 午後1時～ 場所: あきる野市立屋城小学校

TEL: 042-558-1129 (渡辺)

* ハンドボールのコンビネーションプレー

～ 明星学園の実践・研究から ～

小中につながるハンドボールでのコンビネーションプレーの指導内容について、明星学園では長年、実践と研究を積み重ねてきました。そのくわしい報告があります。

* ポケシュートゲーム(1年)授業報告

楽しい! をゴールやルールで工夫し追求した1年生の授業づくり。
その授業報告をします。

内容の濃い例会になりそうです。楽しみです。
例会終了後、懇親会を予定しています。

* 今年度は、春の学習会は計画しません。よろしく!

